

# 西区自治協議会（第 8 期）を振り返って

西区自治協議会会長 大谷 一男

## 1 はじめに

人口減少や少子高齢化が進む中、地域課題は複雑多様化しており、これまで以上に区民や行政と協働し、課題解決のために取り組んでいくことが重要となっています。

今期は、西区自治協議会として重点を置く地域課題を「環境美化」「支え合いの取り組みの輪を広げる」「区の魅力発信・賑わい創出」として取り組み、「地域の担い手育成（自治会・民生委員・児童委員）等」については、令和3年度にて一区切りをつけ、令和4年度からは新たに「防災」について取り組みました。また、今期は次期西区区ビジョンまちづくり計画策定の時期となっていたことから、計画策定に向けたアンケート調査についても取り組みました。

第7期に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、徐々に地域活動が再開され、西区自治協議会においても、参加手法にリモート参加を取り入れるなど、環境に合わせた会議開催を模索しながら、協働の要としての役割を停滞させることの無いよう努めました。

第9期の西区自治協議会において、さらなる地域課題の解決に取り組んでいただけるよう、第8期の成果や取組をここに報告いたします。

## 2 取組内容・成果・課題

### (1) 本会について

#### ア 次期西区区ビジョンまちづくり計画策定に関する議論

平成27年に策定された西区区ビジョンまちづくり計画が令和4年度で満期となることから、第8期は次期西区区ビジョンまちづくり計画を策定するためにさまざまな議論を重ねました。

委員全体ではワークショップを実施し、現在の計画に基づき実施されてきた取組と成果を検証するとともに、次期西区区ビジョン策定に向け現状認識と将来の課題を把握することを目的に意見交換を行いました。

各部会においては所管する分野を中心に議論をかわし、次期西区区ビジョンまちづくり計画が、より地域課題に沿った内容となるよう積極的に意見出しを行いました。

## イ 区自治協議会における議論の活発化

第8期においては、部会の垣根を越えて、委員全体で活発に議論を行うことを目指し、部会での取組とは別に、「防災」をテーマとして委員全体で取り組みました。委員を対象に防災についてのアンケートを実施し、回答する際は委員個人のみではなく、所属団体の意見も併せて吸い上げを行い、委員間で共有を行いました。また防災に関するワークショップを行い、委員同士で活発な議論を行いました。将来的にはテーマを設けずとも、区自治協議会で常に活発な議論が行われることを目指します。

## ウ 西区自治協議会委員研修会の実施

西区自治協議会では、第8期に区独自の委員研修会を2回実施しました。

令和3年度は、昨今課題解決の指標とされているSDGsについて理解を深めるために、講師の先生を招いて勉強会を実施しました。

令和4年度は、今期西区として重点を置く地域課題としても取り組む「防災」について、講演会を開催し、多発する災害に備えるための知識を得る研修会を実施しました。

## (2) 部会・提案事業について

### ア 第1部会

第1部会は、防犯、防災、自然環境、住環境分野を所管する部会です。

第8期では、自然環境、住環境分野である「環境美化」に重点的に取り組むことを地域課題として活動を行いました。令和3年度に現地調査としてごみ拾いを行い、市関係課やごみ拾い SNS 開発会社との意見交換を実施しました。令和4年度は、前年の現地調査や意見交換で見た西区の課題を解決するため、区民の環境美化意識向上につながる2つの事業を実施しました。1つ目は、区内で活動する企業や団体等にパートナーとなってもらい、西区自治協議会が指定したごみの多い場所でごみ拾いを実施してもらう「パートナー制度」です。2つ目は、個人を対象にごみ拾い SNS ピリカを活用し、西区内でごみ拾いをした様子を投稿してもらう「さぁチャレンジ！あなたもできます。#西区をきれいに！！」です。

### イ 第2部会

第2部会は、保健・福祉、文化・スポーツ、教育分野を所管する部会です。

第8期では、重点的に取り組む地域課題である、「支え合いの取り組みの輪を広げる」を念頭に、令和2年度に選定した「支え合いの大切さ」を広める標語の最優秀賞を用いたポスター・チラシを作成し啓発活動を行いました。また、現在の西区民の「支え合い」に対する認識と行動の実態をアンケート及びワークショップによって把握し、より多くの西区民が「支え合い」に踏み出すため

の手法を検討しました。

### ウ 第3部会

第3部会は、産業、区の魅力発信、交通分野を所管する部会です。

令和3年度は、「区の魅力発信・賑わい創出」を重点的に取り組む地域課題とし、地域活動団体から課題解決につながる提案を募集し、地域活動団体とともに課題解決に向けて取り組みました。令和4年度は、西区を好きになり住み続けてもらうために、重点的に取り組む地域課題を「魅力発掘」に改め、西区にあるさまざまな魅力を掘り起こし、親しみを持ってもらえるよう「西区八景」と名付け選定を行い、西区ホームページや西区自治協議会広報紙に掲載しました。

また、区の魅力を発信するためのプロセス等を学ぶ機会として、新潟経営大学観光経営学部の出口高靖教授から講義いただき、意見交換を実施しました。

### エ 広報紙特別部会

広報紙特別部会は、西区自治協議会広報紙「西区を豊かに」の編集・発行を所管する部会です。

区自治協議会の活動を広く区民に周知し、認知度を上げる目的で、広報紙「西区を豊かに」を第8期に6回発行しました。構成にあたっては、特集や連載企画を織り交ぜながら、多くの方に読んでもらえる紙面づくりを心掛けました。

SNSに広報紙の記事を掲載することで、紙媒体では情報が行き届かない方への情報発信につなげることができました。区民参加型の企画として、とっておきの写真を募集する、「とっておきの私の一枚」を実施したほか、クロスワードパズルを掲載し、回答の際にいただくアンケートでは、区自治協議会に対する多くの意見や感想を得ることができました。

また、西区役所だよりで2回、西区自治協議会に関する特集を掲載していただきました。

今後も区自治協議会の認知度を高めるため、親しみやすい紙面づくりに一層努めていきます。

### オ アートフェスティバル特別部会

アートフェスティバル特別部会は、西区アートフェスティバルの企画・実施を所管する部会です。

区内の文化風土を耕して区民の一体感を醸成するため、区内で音楽・芸能やアート表現に取り組む方々の発表の場として、西区アートフェスティバルを年1回開催しました。そして、区内の大学・小学校・福祉施設と連携し、アート作品展示・「おん×てっく（おんてっく）」を実施して好評でした。

※提案事業の具体的な成果・課題等については、添付の事業評価書を参照ください。

### 3 おわりに

今期は、計 6 つの重点的に取り組む地域課題の解決に向けて取組を行い、事業内容に合わせて委員自身で取り組む手法と、地域活動団体から事業を募集する手法を取り入れることで、効率的に課題解決に向けて審議、事業実施を行うことができました。

来期も事業に合わせた手法をとることで、効率的かつ効果的に地域課題の解決に向けて取り組んでいきたいと考えております。

課題としておりました、本会での活発な議論も、「防災」という地域課題について部会の垣根を越えて議論することで、普段事業を共にしない委員同士での意見交換の機会を設けることにつながりました。来期も、部会と同様に本会でも活発な議論が行われるよう、引き続き取り組まれることを期待します。

第 9 期は、このような点を踏まえ、区民と市の「協働の要」として、活動の活性化がさらに図られることを願います。

# 各区自治協議会の活動・運営における 課題解決に関する情報共有

西区自治協議会

## 1. 第1部会

### (1) 区自治協議会の認知度向上について

- 認知度を向上するために必要なことはなにか
  - ・委員が、自治協議会で得た情報を所属団体へフィードバックすることで、「自治協議会」の活動が広まり認知度向上につながるのではないか
  - ・自治協議会の活動は、委員と区役所とで完結するものが多いため、地域住民も巻き込んだ活動が必要である
  - ・自治協議会発足から16年経った今になって認知度向上を議論するのは違うのではないか

### (2) 住民の意見・ニーズ把握方法について

- ・委員の所属団体へフィードバックを行っても、地域住民にまでその情報が浸透しているとはいえず、自治協議会委員が地域の意見を吸い上げるのは困難である

## 2. 第2部会

### (1) 区自治協議会の認知度向上について

- 認知度を向上するために必要なことはなにか
  - ・「区自治協議会」という文字をあらゆる場面でPRしていく必要がある
  - ・関心がないと記憶に残らないので、「区自治協議会」に関わる人を増やす
  - ・区自治協議会が今以上に「主体」として活動しリーダーシップをとれば、おのずと認知度があがる

### (2) 住民の意見・ニーズ把握方法について

- どのような手法が考えられるか
  - ・地域コミュニティ協議会では全戸配布を利用して調査した例がある
  - ・調査する年代によっては、学校などの教育機関に協力を依頼したほうがよい

- **ニーズ把握の進め方について**
  - ・調査したいテーマ・課題によって手法が異なるため、調査内容が確定してからニーズ把握調査は進む
  - ・行政で多くの調査を実施してきているため、既存のデータを活用してそこからニーズを把握できるのではないか

### 3. 第3部会

#### (1) 区自治協議会の認知度向上について

- **認知度を向上するために必要なことはなにか**
  - ・若い世代の自治協議会への参加を呼び掛けるため、夜間の開催を検討する

#### (2) 住民の意見・ニーズ把握方法について

- **どのような手法が考えられるか**
  - ・自治協議会委員とコミュニティ協議会会長とで意見交換（情報共有）の場を設ける
  - ・まちづくりのためのワークショップを定期的を開催する
- **ニーズ把握の進め方について**
  - ・自身が所属する部会以外の委員とも積極的にコミュニケーションをとることで、地域課題の把握につながるのではないか